

かわらばた すまし屋 ハウス

2019-5
vol.
239

発行
有限会社
大和久建築
TEL 0475 (22) 4148
茂原市高師 4 7 6

現状を見つめれば女系天皇やむなしの観もある中、代々守られてきた伝統を変えることに批判的な意見も多数。小泉内閣時代より見直し問われてきた皇位継承問題も今となっては喫緊課題とも言えるのでは...

☆今月の一言【木を見て森を見ず】小事にとらわれて大事を見失うこと。狭い視野, 狭い見識では難題解決は不可能。柔軟な姿勢を心掛けたいものです。

建物いろいろウォッチング

銅製雨樋だったばかりに

外装材の劣化進行程度は地域特有の気候や環境により多分に影響を受けるものですが、材質や形状によって破損や欠損等を招く例もあります。一般的に普及している納まりや工法であったとしても、部材の使い合せにも注意が必要です。

本誌第2号(1999年8月号)で、イオン化傾向大小の影響により、銅板屋根上を流れた雨水が通ったステンレス製の雨樋に白錆を発生させたことを紹介しました。今回は、部材形状の関係と環境汚染が複合して生じたと思しき事例を紹介します。

おそらく10年以上経つ以前、軒樋(横樋)に開いた何カ所もの穴の修理をという依頼があり、確認すると材質は銅で穴の径は1~3mm。修理可能なので一旦は補修するものの、何年と経たぬうちにまた穴開きが現れ再度補修に一部交換。更に数年後再び穴が...。やむなく全交換を検討するものの、銅製はかなり高額となるため塩ビ製を採用。これが約6年前で今のところ異常なし。

昨年別件にて、前述同様の銅製軒樋穴開きトラブルを確認。穴は下からでも一目で分かるほどの直径約2cmにも及ぶ大きさ。また、前件で何気なく見過ごしていたのが、穴開きが等間隔であること。本件では著しく穴が大きかったため一目瞭然。寺社のため塩ビ製で交換という訳にもいかず銅製雨樋で復旧。

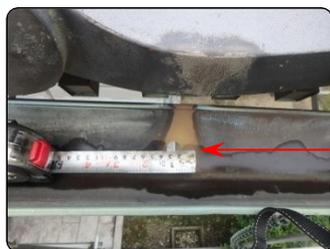
前者と後者は屋根が瓦であることが共通点。雨天の際、瓦の凹部に雨水が集中して流れ、その雨水の落ちる直下部分に穴が出来易かったことが一因なのは容易に想像できます。とはいえ、ある程度強い雨では軒樋に流れがあり、直接樋表面に雫が落ちる訳ではなく、



瓦凹み部分の直下だけに等間隔で穴が開いている様子が一目で分かる。後者物件。

この様な現象を頻繁に目にするようになったのは近年のこと。環境悪化による雨水の酸性化(世に言われる酸性雨)も影響しているのでは

ないかとも考えられます。特に弱い雨では樋表面に直接雨水が滴り落ちる状況となるため要注意です。ちなみに、平葺や瓦葺葺あるいはコロニアル等、雨水が均一に雨樋に流れ落ちる屋根では、今のところこの様な例については殆んど見られません。



直径18mm前後の穴が並ぶ。

だんらんばたけ



手書きで伝わるもの

機械的に次から次へともものが生産される昨今、出来栄えはともかく手作りのものには不思議と愛着を覚えます。街角の看板や表示板等も手製のものをよく見かけますが、工業製品とは異なる趣には何かと興味をそそられます。

常にカメラを持ち歩ける便利な時代。いつも目にしていた光景が何かいつもと違う時、思わずシャッターを切り、人に伝えたいようなことが少なからずあるのではないのでしょうか。

月に3・4度利用するJR線。2018年(平成30年)11月18日茂原駅にて。ホームのお決まりの場所でふと足元を見ると、乗車口表示ラベルが何と手書きで!不意の意外な光景に驚き即写真撮影。他にも何か所かあったのかもしれませんが、確認したのは近くに見えたもう一カ所のみ。次回乗車の12月8日には通常のラベルに戻っていたので、お目に掛かれたのはわずかな期間。この愉快な一コマに出会えのは実に幸運!? 正確無比の工業製品は機能重視で仕上がりも綺麗ですが、どこことなく無機質で冷たい感も否めません。このラベルは仮で一時的なものとはいえ、駅員なのかそれ以外のJR職員なのかは不明ですが一人の製作者がいて、不慣れと思われる業務ながら身骨を砕いて描いている姿が目につきます。



特急用の赤いラベルは通常通り



手書きの乗車口ラベル

作品の様子から、製作時における作者の心境や姿勢を窺い知ることが可能であると共に、想像することも一つの味わいでしょう。

視聴者からの手紙を読んで各地を紹介する某番組。圧倒的にパソコン派の多い中時折登場する手書きからは、文面だけに留まらないより深い投稿者の思いが心に響いてくるような気がするの筆者だけでしょうか。



12月8日には通常通りに

ざつがくの庭

高純度物質の生産は極めて高度で特殊性を有するようで、以前純鉄は錆びない錆びにくいと紹介したことがあります。その上プラチナ以上に高価!

「水の氷点は」と聞かれれば殆どが摂氏0℃と解答するでしょう。ところが、全く不純物がない水は、振動も与えることなく温度を下げていくと-15℃位まで凍らないそうです。0℃以下の水のことを過冷却水と呼び、ちょっとでもほこりの侵入や振動が加わると瞬間に凍ってしまうそうです。小さな粒子にするとさらに低い温度でも液体状態を保つため、直径1ミクロンだと-40℃位まで液体保持が可能。上空の雲も粒子が細かく-20℃位まで液体であるものが多いそうです。

でも...水は0℃で凍ってくれないと冷蔵庫で氷が作り難くなって困っちゃいます。

答え 1. いっかげん 2. てつけつ 3. ようとして 4. ちょうび 5. いかる

読めますか?

1. 一家言
2. 剔抉
3. 杳として
4. 掉尾
5. 鶺鴒

ヒント: 鳥の名前

次号をお楽しみに